

25年度入試 県教委方針 面接、作文で評価

県教委は、不登校や病気、長期欠席などで中学校の出席状況に事情を抱える生徒の学びにも力を入れる方針だ。2025年度の県立高入試から杜陵高定時制後期日程に「チャレンジ枠」17人分を新設。学力検査と調査書による判定ではなく、面接と作文で意欲を評価する。中学まで十分に能力を発揮できなかった生徒の挑戦を後押しする。

募集定員は盛岡市の本校が12人、奥州市の奥州校が5人。定時制で手厚い指導をしているため、同校で導入する。定時制全体の定員は本校160人（前期100人、後期60人）、奥州校80人（前期60人、後期20人）。チャレンジ枠は後期日程の中の枠となる。入試要項が近く公表される。

県立高入試は、一般的に5教科の学力検査と調査書（各教科の評定）で検査する。出席状況によっては調査書の記載内容が少ないケ

ースもあり、出願のハードルになると想定されている。杜陵校は1924年創立。本県の定時制・通信制教育のセンタースクールに位置付けられ、必要な科目を選択して学ぶ単位制を導入している。定時制は、自分にあつた日中または夜間帯のクラスを選び、単位を取得して卒業を目指す。

同校で学力検査が不要な入試は面接や作文で評価する「成人枠」はあるが、中

学卒業段階の年代を対象とする制度は初となる。

文科省の22年度調査では、本県で年30日以上欠席した不登校の中学生は1388人（前年度比180人増）。新型コロナウイルス禍で交流機会が減少したことや生活リズムが乱れやすい状況が続いた影響、不登校への理解が広がり、保

護者の中で無理して通わせない意識が働いていることなどが背景との指摘がある。

全国では、東京都立高で学力検査によらない入試で選抜する「チャレンジスクール」が設置されている。

県教委の中村智和高校教育課長は「生徒それぞれのさまざまな状況がある。自分に合った入試を受け、高校生活にチャレンジしてほしい」と語る。